

みなさんと未来を考えるフェニックスセンター★NEWS

i land Fill

Vol. 14

なぜ海をごみで
埋立てるのかな?

特集

上海万博で世界も注目!

フェニックスちゃんと一緒にフェニックス計画をPR!



関西ギャラリーでの展示



地元メディアからの取材

海をごみで
埋立てる
島に!?

7月31日から8月4日までの5日間、環境をテーマとした大阪館に併設された関西ギャラリーで、DVD上映やポスター展示、リーフレットの配布を行い、日本におけるごみの減量化3Rの取り組みや、フェニックス計画の紹介を行いました。2体の「フェニックスちゃん」(写真の起き上がりこぼし)の効果もあり、会場は常に大盛況で、座り込んでDVD画面に見入る人など、上海市民をはじめ、中国、世界の方々に、フェニックス計画を知っていただくことができました。

また、環境をテーマにした展示ということで、上海市地元メディアの取材を受けました。日本におけるごみの減量化3Rの取り組みやフェニックス計画について大いに興味を示され、上海市(人口約2千万人、大阪湾圏域と同等)の環境行政に対するアドバイスを求められました。この取材からも近代化する中国における環境保全に対する関心の高さがうかがわれました。

今回の上海万博出展で初登場となる2体のバルーン人形の「フェニックスちゃん」は、抱きつかれたり、一緒に写真を撮られたりして、子供たちに大人気でした。今後は、近畿で開催される環境イベントに参加しますので、ぜひ会場に足を運んでいただきたいと思います。



A.

内陸部は土地利用が進み、最終処分場を確保できません。大阪湾に埋立てをすることで、ごみの処分だけでなく、土地をつくり活用できるのです。上海万博でも注目されましたが、捨てられたごみは焼却され、残った焼却灰で土地としてよみがえる…まさに「フェニックス」たる所以です。



参加
しよう!

意識が
変わる!

楽しいフェニックス講座

参加者
募集!

フェニックスセンターの事業を、多くの人に理解してもらうため、また3R活動を推進することを目的として、小学校や各地域などに出向いて、センター事業・ごみの行方・環境調査・3Rの重要性などについてお話しする「フェニックス講座」を実施しています。

写真のように専門スタッフとパワーポイントによる20分程度の構成ですが、クイズなども交えて楽しく学習できる中身となっています。

申込みの状況にもよりますが、小学校4年生以上であれば、埋立処分場の見学と併せて実施することも可能です。

お問い合わせ:総務課 06-6204-1721



33年には
処分場が満杯かも
.....

オリジナルグッズがもらえる! 各地で盛り上がる環境イベント!!

当センターは、近畿2府4県168市町村から排出される廃棄物を安定的かつ安全に処理することにより、市民生活の環境保全に大きな役割を果たしています。

そこで、府県や市が開催する環境イベントに積極的に参加し、パネル展示やスライドショーを通して、広くセンター事業の紹介を行っています。

今年のトップバッターを飾る「国際フロンティア産業メッセ2010」は、神戸国際展示場で9月9日～10日に開催され、当センターのブースに「はばタン」(兵庫県イメージキャラクター)が飛び入りで参加をしてくれるなど、イベント参加者と一緒にスライドショーを熱心に視聴してくれました。「はばタン」もセンター事業について理解を深めたことと思います。

これからも積極的に環境イベントに参加しますので、ぜひ最寄

りの会場に足を運んでいただければと願っています。そして会場でのクイズやアンケートにご回答いただきました皆様には、もちろんセンターオリジナルグッズをプレゼントいたします。



今年も
開催!

イベント名	主催者	開催日	開催場所
国際フロンティア産業メッセ2010	兵庫県・神戸市	9/9・10(終了)	神戸国際展示場
環境フェア	奈良県	9/20(終了)	奈良県産業会館
テクノオアシス2010	神戸市	10/14～16	神戸国際展示場
ひょうごエコフェスティバル2010	兵庫県	10/16・17	有馬富士公園
びわ湖環境ビジネスメッセ2010	滋賀県	10/20～22	長浜ドーム
エコアートフェスタ大阪2010	大阪市	10/30・31	天保山ハーバービレッジ
ごみゼロプロムナード2010	大阪市	11/7	大阪市環境局西淀工場
京都環境フェスティバル2010	京都府	12/11・12	パルスプラザ

※なお、環境イベントの詳細は、主催者にお問い合わせください。

フェニックス
ご報告

泉大津フェニックスで 野外コンサートを開催

泉大津フェニックスで、野外コンサート「GREENS 20th Anniversary Live」が8月28日(土)、「RUSH BALL 2010」が29日(日)、「OTODAMA'10」が9月4日(土)に開催されました。会場となる芝生広場には、延べ約40,000人の観客が来場し、次々に登場する出演者に熱い声援を送り、盛り上がりを見せていました。

当日、会場には、当センターや大阪府港湾局などがメンバーである「にぎわいづくり委員会」もブースを設け、フェニックス事業のパネル展示や、アンケート調査を行いました。

泉大津フェニックスでの野外コンサートは平成17年から毎年開催されており、夏のビッグイベントとして定着しています。



成果発表会開催

大阪湾フェニックスセンターでは、大学や研究機関の若手研究者を対象に研究助成を行っています。

毎年7月には、この助成制度に採択された研究者による成果発表会を開催し、今年は7月27日(火)に「廃棄物・海域水環境保全に係る調査研究助成事業成果発表会」が、7月29日(木)には「大阪湾圏域における海域環境の再生・創造に係る研究の助成事業成果発表会」が盛大に行われ、会場では活発な意見・質疑が交わされました。

廃棄物・海域水環境保全に係る調査研究助成事業 成果発表会

- ◆日時:平成22年7月27日(火)10時～17時
- ◆場所:TKP淀屋橋カンファレンスセンター(大阪中之島ビルB1)
- ◆内容:▶基調講演「低炭素社会と廃棄物処理」
武田信生 立命館大学エコテクノロジー研究センター長
- ▶研究者発表:10題
- ▶参加者数:130名

大阪湾圏域における海域環境の再生・創造に係る 研究の助成事業成果発表会

- ◆日時:平成22年7月29日(木)13時～17時
- ◆場所:三宮研修センター
- ◆内容:▶研究者発表:12題
- ▶参加者数:87名



私たちにできること

『ガラスの地球を救え!』

これは手塚治虫さんの書いた本のタイトルで、何百年・何千年後の地球を見据えて、環境問題に対するメッセージがこめられた言葉なのです。

今年の4月29日に朝日放送で放映されたスペシャル番組のタイトルでもあり、エコ、水資源、森林保護などいろんな環境問題が取り上げられました。その中で、より身近な問題としては「関西のごみはどこへ? 衝撃の事実」と題して、家庭から出たごみがその後どうなるのかが紹介されました。大阪湾フェニックスセンターではごみの搬入施設や最終埋立処分場の状況など、できるだけ多くの方々に知っていただくために取材に協力してきました。



家庭から出たごみはもちろん焼却されるのですが、0(ゼロ)になるわけではありません。灰として残ってしまいます。この灰が埋立処分場へたどり着くわけですが、大阪湾フェニックスセンターでは4つの埋立処分場がありますが、近畿圏域168市町村から広域で廃棄物の受入れを行う埋立処分場はこれからも必要です。番組でも紹介されましたが、11年後には最終処分場が満杯になり、ごみの最終の行き場所が無くなってしまふということが問題として残っています。新しい埋立処分場の建設を考えていく必要があるかもしれませんが、ごみの発生を抑えるにはどうしたらいいかを考えることも大切ではないでしょうか。



第1回『もったいない』

環境分野で、またアフリカの女性としても、初のノーベル平和賞を受賞したケニア人女性、ワンガリ・マータイさん。彼女が世界をつなぐ合言葉として提唱した『もったいない』。このことばには、リデュース、リユース、リサイクルの「3R」に、さらに環境に対するやさしい思いが込められています。

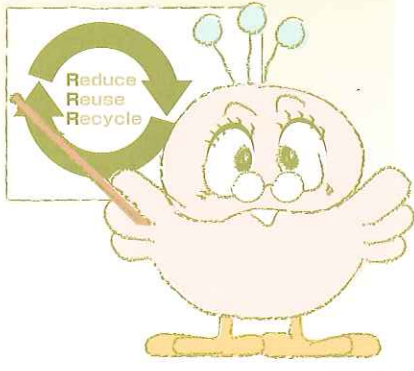
かつて、お兄ちゃんやお姉ちゃんの「お下がり」を弟や妹が着たり、先輩が勉強に使った本を後輩に譲ったりと、人々はモノを大切に、感謝の心を持って使っていました。そして昨今、「大量生産、大量消費、大量廃棄」の生活を反省し、再利用(リユース)が見直されています。

まだ使えるモノを、いらなくなった人から使いたい人に受け

渡す場として、全国各地で行われているフリーマーケットやガレージセール。循環型社会形成の一端を担う場として、そしてなにより『もったいない』の心をつなぐ場として、みなさんの参加が求められているのかもしれない。

こうした3R活動を進めてもなお出てしまうごみは、適正に処理しなければなりません。最後はフェニックスなどの最終処分場で処理されることになっています。

しかしながら、『もったいない』の心が少しでもごみ減量につながるように、世の中にはどんな取り組みや工夫があるのか、いろいろな事例などを皆さんにこのシリーズ(ザ・スリーあ〜る)で紹介していきたいと考えています。



平成21年度決算概要

	費用の部 (単位:百万円)		
	H21年度	H20年度	H21-H20
事業損益計算			
事業費用	15,948	23,453	△7,505
廃棄物処理費	9,773	10,137	△364
受託事業費	4,013	11,588	△7,575
一般管理費	2,162	1,728	434
事業利益	2,416	5,262	△2,846
事業外・特別損益計算			
事業外費用	1,759	4,163	△2,404
特別損失	81	115	△34
事業外・特別利益	△1,401	△3,421	2,020
当期利益	1,015	1,841	△826
	収益の部 (単位:百万円)		
	H21年度	H20年度	H21-H20
事業損益計算			
事業収益	18,364	28,715	△10,351
廃棄物処理料	14,351	17,127	△2,776
受託事業収益	4,013	11,588	△7,575
事業外・特別損益計算			
事業外収益	417	452	△35
特別利益	22	405	△383

[増減要素]
 <費用の部>
 ■受託事業費
 大阪沖処分場関連工事の減少による75億75百万円の減。
 ■事業外費用
 維持管理積立金の先行積立等の減少による24億4百万円の減。
 <収益の部>
 ■廃棄物処理料
 浚渫土砂、汚泥・鉱さい等の管理型産業廃棄物の搬入量減に伴う27億76百万円の収入減。
 ■受託事業収益
 大阪沖処分場関連工事の減少による75億75百万円の減。

※百万円単位での端数処理のため、合計値は必ずしも一致しません。



「ごみ減量は一人ひとりの心がけから」

タレント ^{わきや}脇屋 ^{かなこ}香名子

■プロフィール

当センター広報DVDにレポーター「未来さん」役で登場
出身地 大阪府
現在、テレビ和歌山「きのくに21」でメインキャスターとして活躍中

✿未来さんの不安な気持ち

大阪湾フェニックス計画のDVDを作成するにあたって、私はリポーター役を務めさせていただきました。この機会に大阪湾の埋立処分場に行ったり、ごみが回収されてから、埋立てられるまでの流れを詳しく知ることができ、私のごみに対する意識が確実に変わりました。現在近畿2府4県から発生する廃棄物は大阪湾埋立処分場と神戸湾埋立処分場に運ばれています。

大阪湾に浮かぶその島へ船で渡り、陸岸壁の部分に下りた時、何台ものダンプカーが荷台に山積みになった廃棄物を海に投入していく光景が目に見えてきました。大量の廃棄物が船で運ばれてきて、巨大なショベルカーでダンプカーに移し、次から次へと海へ捨てられていく…どんどんこうやって、10年もの月日と莫大な費用をかけてつくった処分場が埋め立てられていく光景をみて、とても不安な気持ちになりました。この処分場も平成33年にはいっぱいになるという。ということは、また新たにそれ以降の廃棄物を埋め立てる場所を作っていくなくてはならない。私にできること…ごみを減らしていく、もっとこれを徹底的にしていこう、まずはそこらからと思いました。

✿1枚60円のごみ袋

私のごみを減らしていこうと、リサイクルなどをするようになったのは7年前。私が住んでいる市では燃えるごみの専用袋が年に1回無料で配布されます。家族の人数に合わせてもらえるんですが、子供がまだ赤ちゃんのころ、毎日紙おむつのごみが大量に出るために、その配布されたごみ袋は半年ほどでなくなりました。なくなったら次の配布までは指定ごみ袋を買わなければなりません。そのごみ袋は10枚で600円。燃えないごみの袋は無料配布がなく、5枚で750円。燃えるごみを出すのに毎回1枚60円のごみ袋を使わなくてはならないとなると、どうやっても一回のごみ出しで1枚のごみ袋で済ませたいという気持ちになります。きっかけは「ごみ袋が高い!」だったのですが、これを機にリサイクルできるものは回収箱に持っていき、一番かさばる紙おむつもなんとか減らしていきたいので、時間のあるときは布おむつを使用してみるなど、色々工夫をするようになりました。

✿意外な効果で41%減

私のように、できるだけ無料のごみ袋で間に合わせたいと思ってごみを減らすようになった人は多かったようで、あるとき市のおたよりに、この制度を取り入れてからごみの量が41%も減ったという記事が載っていたのです。最初はなんでこんなにごみ袋が高いのかって不満だったのですが、その結果をみてこれはすばらしいことだと感じました。

✿リサイクルあたりまえ時代

私が子供のころはリサイクルという習慣があまりなく、大人になって主婦になってから始めたことなので、ついリサイクルできる物でもごみ箱に捨ててしまうことがあります。あるとき、紙パックのジュースを飲んでそのパックをごみ箱に捨てたら、小学2年生になる息子が「これもリサイクルできるよ!」って拾いイサミを持ってきて、とても慣れた手つきで一枚の紙になるよう切ってくれたのです。よく切り方知ってるねと言うと、毎日給食で出た牛乳パックは、自分でこうやって切って集めてるからと教えてくれました。学校でこのような習慣を身につけてくれることで、私よりよく気が付き、リサイクルをしっかりとってくれるように思います。

週に2回、家庭から出るごみを集めているとき、いつも埋立処分場に投入されている廃棄物のことを思い出します。家から出るごみなんてほんのつまみにしかならないけど、一人ひとりが意識することで、私が住む市のごみが減ったように、何かいい結果につながると思います。今ある処分場が一日でも長く利用できるように、これからもごみを減らすことに心がけていきたいと思っています。



編集後記

上海万博の出展も盛況のうちに終了しました。フェニックスセンターのブースにはたくさんの方々が集まり、フェニックス計画に関心をもたれた方が多く、フェニックス計画が世界に発信できた良い機会にもなりました。

また、身近な我々の地域(近畿2府4県)のごみの行方を考えていくことも重要で、フェニックスの最終処分場の容量にも限界があることや、廃棄物を長期的・安定的に処理していくために当センターのはたすべき役割、3Rの必要性など考えるうえで、この広報誌が皆さんの一助になればと願っております。

また、今回Vol.14から、多くの方々に見ていただくために、広報誌をリニューアルしました。ご意見ご感想がございましたら、右記のE-mailアドレスまでお寄せください。

(編集スタッフ一同)

i land fill Vol.14

発行: 大阪湾広域臨海環境整備センター
「フェニックスセンター」

<http://www.osakawan-center.or.jp>

〒530-0005

大阪府北區中之島2-2-2 大阪中之島ビル9階

TEL 06-6204-1721(代)

FAX 06-6204-1728

E-mail phoenix@osakawan-center.or.jp

i Land fill は当センターホームページにも掲載しております。



2010.10